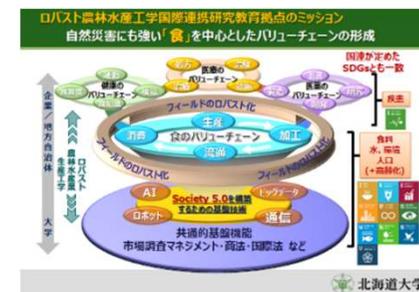


1. 地域連携の好事例（文章・図・写真などでの説明）

①北海道大学ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点

次世代農林水産工学技術を開発するためのプラットフォーム。他大学や公的研究機関、行政、企業だけでなく農林水産業従事者も参画。

JSTミレニアム・プログラムにおいて採択（令和3年1月）された「マルチスケールなエネルギー収穫・貯蔵システムによる適度な分散社会の可能性に関する調査研究」では、地域の風土に適したエネルギーシステムと住み心地の良い環境・文化形成を目指すべき社会像に設定し研究を開始。



②北海道や道内自治体との包括連携協定

令和3年4月に「SDGsの推進」、「経済・産業の進行」、「Society5.0」の実現等について、**北海道と包括連携協定を締結**。同月に道庁内に設置された「北海道気候変動適応センター」が目指す「ゼロカーボン北海道の実現」に協力。また、**研究林がある自治体とも包括連携協定**を締結。



③気候市民会議さっぽろ2020

脱炭素社会の実現に向けて、くじ引きなどで選ばれた市民による話合いの結果を気候変動対策に生かす、全国初の取組み。本学や大阪大学、国立環境研などの共同研究（代表研究者：本学の三上直之准教授）。本会議では、10代から70代までの参加者20人が議論し、報告書として公表、札幌市にも提出した。**脱炭素社会の実現に向け、市民の意見形成・提示するアプローチ**になりうることを示した。



2. 地域連携における課題



北海道と本州の面積比較

- 1) 北海道という大きな地域の中で、プラットフォームになる研究を実施する必要がある
- 2) 農業という一次産業で見ても、地域ごとに特色が異なっている
- 3) 研究から地域での社会実装までを一気通貫で行うことが必要となる



地域の課題・ニーズを正確に把握し、
研究・社会実装テーマとして取り組む
必要がある

3. その他特徴的な取り組み（文章・図・写真などでの説明）

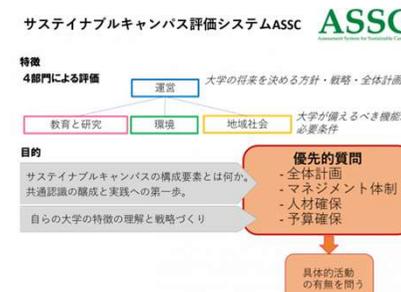
① 広大な研究林での教育・研究活動

総面積7万ha、国土の1/570。世界最大級の研究林を有し、森林の再生・保全の教育・研究を行う。2020年には、基金「北の森林プロジェクト」を創設し研究林の適切な管理と地域貢献を実現。



② サステイナブルキャンパス（SC）の構築・評価

SCとは、教育・研究・社会連携・キャンパス整備を通して、持続可能な社会の構築に貢献する大学。本学では2013年に評価システムASSCを開発・導入し、実践・評価をサイクル化。現在、ASSCは国内外の大学約130校で活用されている。その運用のための独立した組織としてサステイナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）がある。大学等コアリションのメンバーともなっており、本年4月に一般社団法人化された。



4. 地域ゼロカーボンワーキンググループに期待すること、幹事機関・事務局へのリクエスト

各大学の取組みを勉強させて頂き、GOOD Practiceを北海道で展開できるように進めて行きたいと考えています。また、各大学の課題についても共有させて頂き、WGメンバーで解決策を提案できればと考えております。

5. 地域ゼロカーボンワーキンググループへの意気込み・積極的な一言

地域から日本、世界へ向けたゼロカーボンの取組みに積極的に参加していきたくと考えています。